



オクソン 倶楽部



2021年 秋号

茶道は人の歩み、人の行う道である。己を磨き、人格を練り上げる伝統があります。それらの、なし得る源は仏教にあります。運命に対する穏やかな信頼、即ち避けられない事柄を心静かに受け入れ、危険や災難を目のあたりにしても落ちつき、心と身体の資質を高め、バランスよく、結合させる「生き方の哲学」であると考える。今、人類にとって必要なのは「俺が」「私が」とあらゆるものを「独占」するのではなく「分かち合う」ことではないでしょうか。「法句経」に物事は心にもとづき、心を主とし、心によって、つくり出される。もし、清らかな心で話したり、行ったりするな

おたがいさま

佐伯 江南斉

らば、福樂はその人につき従うとある。正しい茶道の根本精神を把握することにある。

茶道によく使われる言葉に「一期一会」という諺があります。これは、おもてなの心を教えたことで、仏教では「一期」とは生まれてから命が終わる迄、つまり一生のこと。「一会」とは一回限りの大切な出逢いを意味します。これ等の思いで「一服の御茶」を頂く事で、深い思いを寄せ、人と人の交流も深まって来るのではないのでしょうか。

「おたがいさま」の心で生きる世間に鬼はなしと申します。自分本位で生きず、世界と調和、他人と調和する

ようにと私は本意と思っております。オクソン社長山口様の出会いも三十年以上になります。が、「おたがいさま」の気持が通じ合い、茶花教室をオクソンで開講させて頂き、皆様と共に楽しく現在も続けさせて頂いております。一九九三年オクソンビル2階に新店舗「久壺庵」三畳台目茶室完成に伴い、毎月一回茶事をさせて頂きました。その中でお嬢様の恵さんとのご縁をいただきました。恵さんの話によると、四年前ハーバード大学ポスドク勤務のためボストンに住んでおられた時、日本人の同世代の四・五家族が集まり、日本在住時は炊いたことも無い小豆を炊いて和菓子を作り、お抹茶を頂く事で、日本を懐かしみ、ほっと思づくゆとりが出来て、明日への原動力にしたそうです。山口さんのお孫さん九才の帰国子女は今年春から、茶道を習いに来られています。今はグローバルの世です。其れ故、日本人として、日本人の所作や心を子供時代から身近に接してゆくのは必要です。私は日本文化の伝統を極めた茶道で子供達にも伝承していく務めを感じています。

プロフィール

さえき こうなんさい
佐伯 江南斉

昭和十八年二月生まれ
昭和四十年 武者小路千家
家元有隣齋宗匠師事
公益法人官休庵理事
を経て
家元教授
華道 遠州流本部四代家元
著書 「茶花を楽しむ」
「四季の茶花」 他

